

AYLA HOUKAGO PARTNER

# アセスメントを 極めよう

～お子様の一番の理解者になろう～



# 目次



①アセスメントとは？

②アセスメントの種類

③アセスメントに関する知識

- ・ WISC－IV（WISC－V）を用いたアセスメント
- ・ 感覚特性から行動を読み解く

④問題行動のアセスメント～アセスメントの心構え～

⑤実践演習

# はじめに



**自閉症をはじめとした発達障害を有する方の中には、家庭や学校、施設または地域社会において様々な問題行動・不適切行動を示す人も少なくありません。**

**それには、発達障害それぞれの障害特性が背景にあり、要因となっている場合もありますが、必ずしも“発達障害だから問題行動を起こす”というものでなく、あくまでも環境との相互作用によって生じるものです。**

**療育の目的は、最終的にその子が自分で社会的に好ましい行動を選択していけるように支援をしていくことであり、その子自身を矯正するものではないと私たちは考えています。**

# はじめに



その子が生まれ持った個の特性を深く理解することによって  
その子がごく自然な形で好ましい行動が選択できるように導くことや、その  
行動を汎化するために大人が意図的に関わり、設定していくことが、療育と  
いう場所なのだと思います。

アセスメントは、その為に必要不可欠な支援者としての視点です。

私たちは、アセスメントこそが支援の根幹だと考えています。

お子様の元々持つ力を最大限発揮できる環境を作るために、アセスメントを  
学びましょう。



**アセスメントとは**

# アセスメントとは何か？



**アセスメント (ASSESSMENT) :**

**「客観的評価・査定」の意味**

**= 対象への適切な介入を行うために、情報を収集し、その情報の持つ意味について分析すること**



—つまり、氷山の下を深ぼるということ—



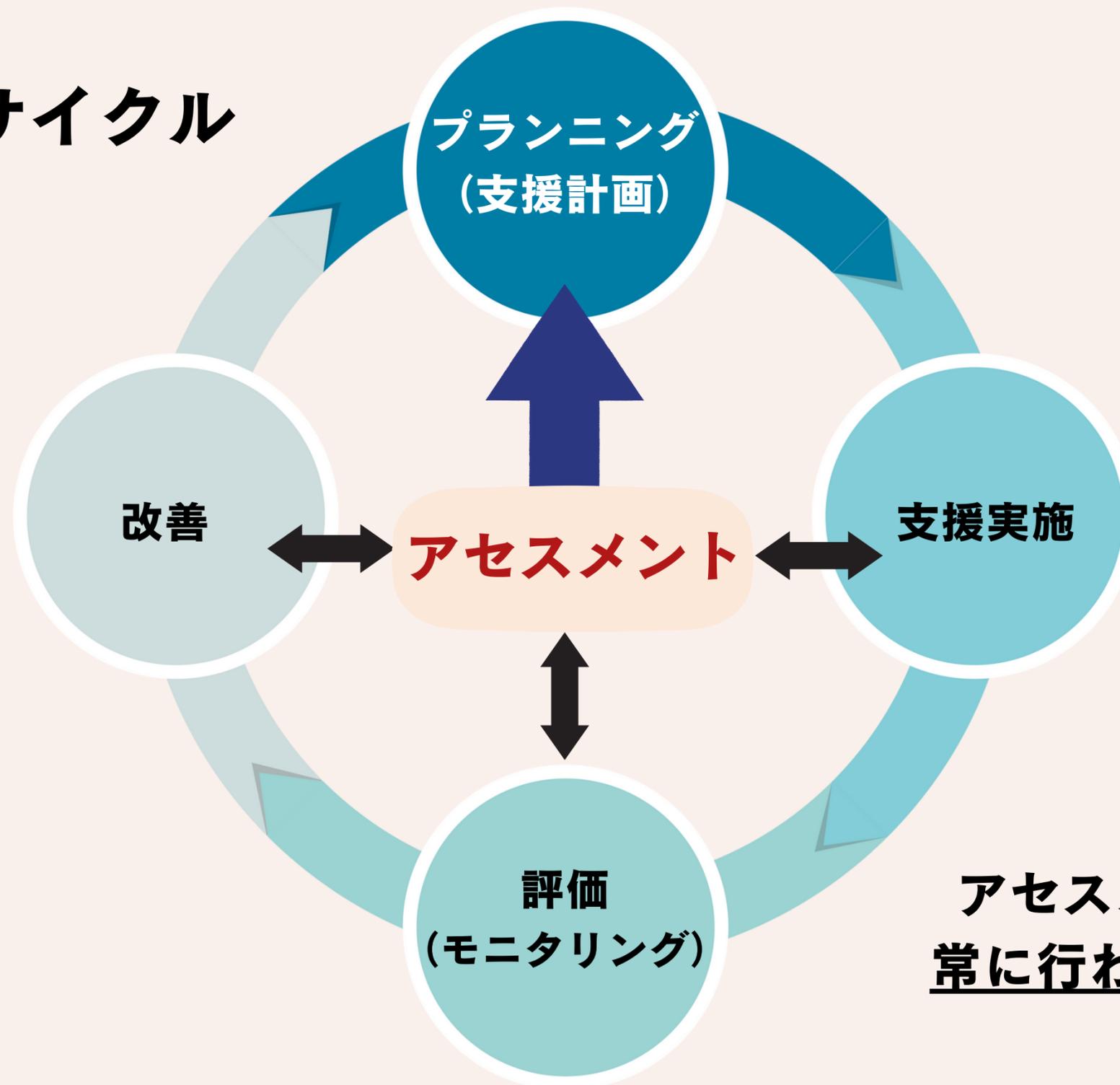
本人にかかわる様々な情報を集め、「なぜその行動が現れるのか」を探ること

# なぜアセスメントが重要？

= アセスメントこそが支援のすべてだから。



## 支援のサイクル



アセスメントは支援において常に行われるべきものである。



# アセスメントは、お子様を「わかる」力

個と環境から「その子」を理解し、「できた」につなげる専門性

お友達を  
叩いてしまう

## < 氷山の表面だけ捉えた支援 >

- ・ お友達を叩いた時に徹底的に叱ったり、ルールで支配することで他害をなくそうとする
- ・ 他害のある子を受け入れないという選択をする

## < 深くアセスメントされた支援 >

「感覚の過敏さから急に声をかけられたり触られたりすることが苦手、かつ言葉がとっさに出てこない」という分析を踏まえ、「今の状況で起きうることとその対応策」を事前に伝えておく

「叩きたい」と思って  
やっているわけではないとしたら

お子様が安心して  
「できた」を重ね  
人とのつながりを楽しめるのは  
どちらの支援でしょうか？

# 集めるべき情報

## 本人とご家族のニーズ

### 個の情報

障害特性

発達の状況

心理的課題

能力の凸凹

ストレス

感覚の感じ方

興味・関心

身体の不器用さ

情報処理の仕方

### 環境の情報

養育状況

地域との関わり

学校・園の環境

社会の制度・ルール

他者からのまなざされ方・

今までの対応のされ方

その子を包括的に理解し、適切なアプローチへつなげる

# 問題行動とは

1

他害・自傷等  
本人や他児の生命に  
大きく関わる行動

2

その行動によって  
円滑な社会参加が  
妨げられる行動

問題行動を行う子どもは「困っている子」

問題行動が現れる条件を分析し  
その状況を作らない支援が大切

# 問題行動の背景

1

独特な言い回し  
語彙の質と量  
= **意思疎通**の困り

2

**適切なスキルの未獲得**  
によって不適切な  
手段を取り続ける



「その子が何を伝えたかったか」  
「その子は何をしたかったか」

# それはなぜ生じるか

**認知機能**

**IQの全体的  
な低さや偏り**

**対人能力**

**空気が読めない  
等対人を難しく  
する特性**

**運動能力**

**手先・運動の不器  
用さによる不安**

**お子様の問題行動の背景には**

**こうした認知機能、対人能力、運動能力の不器用さが隠れている事も**

**成育歴・個人の特性・今置かれている環境**

**多面的にお子様をまなざしていきましょう**



# アセスメントの種類

# インフォーマルアセスメント

## 面接法

面接等によって、保護者や本人、関係者から直接的に収集する方法です。初回の個別支援計画を作成するタイミングでは、この方法が多いです。相手との関係を作る為、傾聴・共感・受容の姿勢を示しましょう。

## 行動観察法

対象となる児童の行動を観察し、その記録を分析する方法です。行動観察では、客観的な記録が大切になります。

## 成果物の分析

お子様の作ったものや机上で行ったプリント、学習の成果などを見て、お子様の得意なところ、苦手なところを分析する方法です。

# フォーマルアセスメント

**尺度が標準化されており信頼性、妥当性があるもの**

同じ道具や質問をたくさんの人に実施してみても標準化されていることや客観的であることが特徴です。又、検査によっては、その個人の得手・不得手をプロフィール化でき支援方法を明確化しやすいという良さがあります。そして、何より検査者が投げかけた問いに対するリアクションから、その刺激がどのように受け止められたのか、困った時にはどのように反応するのかなどが確かめられます。反面、非日常的な場面で評価されるため、普段より能力が低く表れたり、お子様への負担も大きい事がネックです。

**WISC**  
(ウィクスラー式  
知能検査)

**遠城寺式  
乳幼児分析的  
発達検査法**

**田中ビネー  
知能検査**

**SM社会生活  
能力検査**

# フォーマルアセスメントで評価すること

**WISC**  
(ウィクスラー式  
知能検査)

認知能力・知能の発達  
情報の出力・入力

**田中ビネー  
知能検査**

精神年齢

**遠城寺式  
乳幼児分析的  
発達検査法**

言語・社会性・運動の  
発達段階を評価

**SM社会生活  
能力検査**

社会生活における  
適応行動の評価

その他 **K-ABC (日本版 K-ABC II)** : 得意な認知処理様式 (継次処理/同時処理)

**Vineland™-II 適応行動尺度** : 個人的、または社会的充足に必要な日常活動の能力

**SP 感覚プロフィール** : 感覚処理、調整、行動や情動反応

# フォーマルアセスメントの必要性

## 放課後等デイサービスガイドラインより

- 子どもと保護者及びその置かれている環境を理解するためには、  
子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を、

### 標準化されたアセスメントツール

(例えば「Vineland-II 適応行動評価尺度」の日本版) を使用する等により  
確認する。

→各指導員の主観だけでなく、客観的な指標を用いて確認することにより、  
お子様をまなざす視点を統一化することにつなげるため。

# 就労と自立を支えるスキル

社会生活における適応能力（ヒトツナで導入）

身辺  
自立

作業

移動

集団  
参加

コミュニケ  
ーション

自己  
統制



**アセスメントに  
関する知識  
- WISC-IV (V) -**

# 検査を受けるとことで

## ◎ 「STRENGTH」 で 「WEAKNESS」 を補う

視覚的手掛かり、聴覚的手掛かりなど、その子に必要な足場架けを行うことができます。

## ◎ 子どもにとって 「良いこと」 の提案

子どもにとって役立つ支援、カリキュラムの見直し、弱さをカバーする支援の提案などその子の「できる」へとつなげられます。



# 検査を受けることで

## ◎ 「できない」「できすぎる」の可視化

全検査IQは平均が100ですが、130、140と数字が高いからと言って困りが少ないかということそうではありません。高すぎても困りに感じる場合があります。

## ◎ 学習環境の調整や合理的配慮

「何度も同じ間違いをする」という状態に関してもそれが“なぜか”が分かることで周囲に対して理解してもらいやすくなったり合理的配慮等に繋げることができます。



**「発達障害だから出来ない」**  
**それが困りなのか？**



**「それしか選択肢がない」**  
**それが困りなのか？**



理解の促進や  
合理的配慮等  
子どもにメリット  
がある



# ウィクスラー式知能検査

幼児用：WPPSI 児童用：WISC 成人用：WAIS

全検査IQ (FSIQ) : 平均100

言語理解  
(VCI)

言葉を用いて  
物事の内容を理解し  
表現する力

知覚推理  
(PRI)

視空間指標  
(VSI)

視覚情報を  
正確に捉え、理解し、  
表現する力

流動性  
推理指標  
(FRI)

ワーキング  
メモリ  
(WMI)

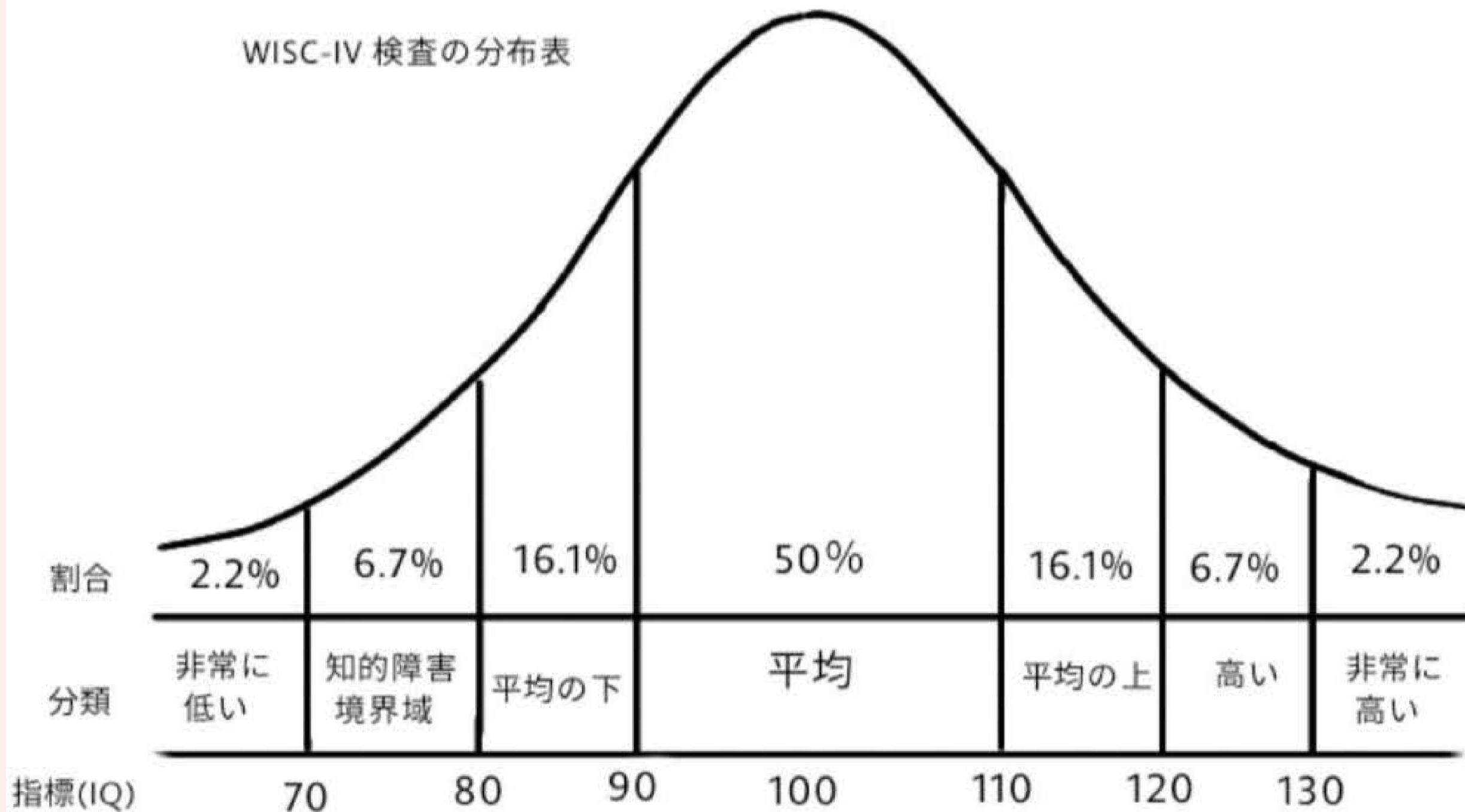
聴覚情報を  
短時間記憶し、  
操作する力

処理速度  
(PSI)

視覚情報を  
正確に捉え、  
素早く処理する力

<b>言語理解</b>	言葉を理解・説明する力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 語彙・知識が豊富</li><li>・ 教科書を読んで内容を理解する</li><li>・ 言いたいことを適切に言葉にして伝える</li></ul>
<b>知覚推理</b>	もの・図・イメージ・動きを「見て」考える力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地図・設計図の理解</li><li>・ その場の雰囲気から置かれた状況や暗黙のルールを理解する</li><li>・ 察する（推理する）力</li></ul>
<b>ワーキングメモリ</b>	聴覚的な短期記憶	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 暗算、計算する</li><li>・ 指示を聞いて記憶した状態で作業する力</li><li>・ 注意力</li></ul>
<b>処理速度</b>	視覚情報を素早く正確に処理して体を動かす速さ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 板書する（目で見て書き写す言葉を判断して手を動かす）</li><li>・ チラシを見て目当てのものを見つける</li></ul>

WISC-IV 検査の分布表



# 言語理解の凹凸への対応

## 得点が高い子

- ・ 言語を用いてまとめたり、説明したりすることが得意。
- ・ 語彙力も豊富。学校の勉強ができる。
- ・ 明文化されていない社会的ルールを感じることもできる。
- ・ ただし、言語理解が得意であることが必ずしも、コミュニケーション力の高さにつながるわけではない。

## 得点が低い子

- ・ 言葉の意味を正確に捉えられず、コミュニケーションにおいて
- ・ 相手が伝えたいことが理解できない場合がある。
- ・ 具体的な言葉でイメージしやすくしたり、お互いに認識の確認をしたりすることが大切になる。
- ・ 指示時は短く区切ってシンプルに。
- ・ 絵や図が入ったマニュアルがあると、理解しやすくなる。

# 知覚推理の凹凸への対応

## 得点が高い子

- ・ 視覚から得た情報を理解し、整理したり推論したりすることが得意。
- ・ 数学であれば、図形の問題や論理的に考える問題が得意。
- ・ 常識的な情報、空気を読める力が強い、瞬時に感覚的に
- ・ その状況における他人の考えを汲み取ることも得意。

## 得点が低い子

- ・ 視覚から得た情報を捉えることが苦手で、図や表、
- ・ 地図の読み取りが難しい、見通しを立てることが困難な傾向がある。
- ・ 話の内容がまとまりにくいことがある。
- ・ 情報を省略し過ぎず、言葉での説明を補足すると良い。
- ・ 視覚情報はシンプルに、活動の目的と工程を明示する工夫が必要。

# WMの凹凸への対応

## 得点が高い子

- ・聞いた情報を頭の中で整理し、考えることが得意。
- ・数学であれば、暗算が得意。職場において口頭指示が受け取りやすく、複数の指示を整理することができる。
- ・他の人の話を聞きながら自分の考えをまとめることも得意としている。
- ・短期的な集中も得意な傾向がある。

## 得点が低い子

- ・耳から入った情報を覚えたり、頭の中で処理したりすることが苦手。
- ・口頭での指示が覚えられなかったり、電話対応が苦手だったりする。
- ・指示を受けたらメモを取る、後から確認できるようにする工夫が必要。
- ・ワーキングメモリーは、読み書きや計算にも関係している。

# 処理速度の凹凸への対応

## 得点が高い子

- ・ 単純な作業をスピーディーに行うことが得意な傾向。器用な人が多く、細やかな作業を確実に短時間でこなせるタイプ。
- ・ 決まったマニュアルに沿って作業をしたり、一連の流れを繰り返して行ったりといった単純な作業が得意。

## 得点が低い子

- ・ 単純な作業が平均よりゆっくりだったり、速度は平均的でもケアレスミスが多かったりといった傾向がある。
- ・ 作業をする際は、作業時間の調整や作業を区切り集中力を保つような環境を作る工夫が必要。
- ・ 学校の勉強であれば、「黒板の文字をノートに書き写す」などが苦手。

# 検査への正しい認識を

**知能検査だけでは、障害を判断できない**

→ 行動観察、学力検査、生育歴、環境要因を総合的に判断する必要

**検査には誤差がある・検査結果は変動する**

→ 検査者のスキル、子どもの体調、心理状態、検査時の年齢等（信頼区間）

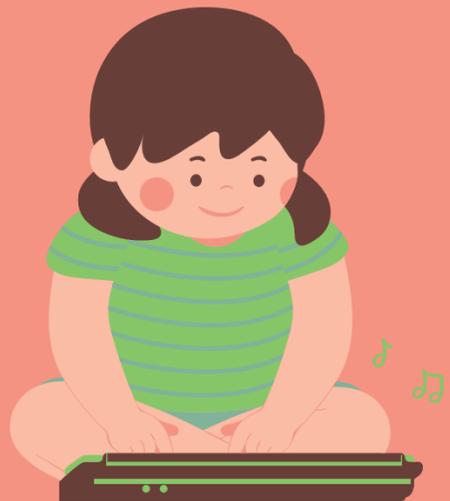
**知能指数 = 人間の能力ではない**

→ あくまでも能力の一部。高いから優れているわけではない

これらを踏まえたうえで、その子の得意不得意を分析することで、  
強みを活かし弱点を補強するための工夫をする

**できない背景には  
得意不得意の凸凹が隠れているのかも。**

**それを正しく理解し  
伝え方をひと工夫する・  
環境に一手間加えるなどで  
「できる・わかる」を  
保証することが大切**



**「できない」行動に  
フォーカスするのではなく  
「なぜできないか」  
「どうすればできるか」を  
分析する力が専門性**



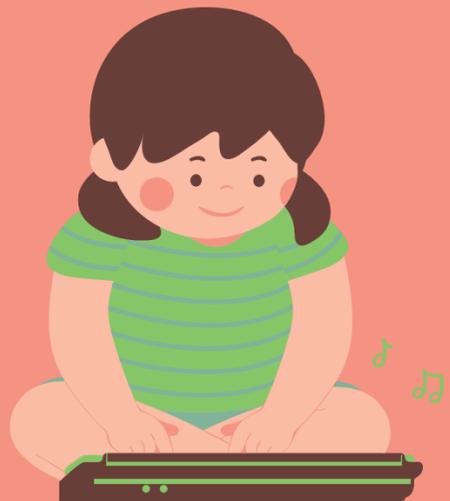
# 一見、問題行動に見える行動も

生まれてからずっと  
世界への恐怖心を抱えて生きている子なのかもしれない。

力加減が難しいだけで、その子は人と関わりたいと  
強く願っているのかもしれない。

刺激が足りず、欲しくて欲しくてたまらず  
離席をしているのかもしれない。

行動を「バツ」とジャッジするのではなく  
観察し、想像し、理解しようとし、  
適切な支援につなげることが  
私たちの役割です。





# インフォーマル アセスメント

# 困ったなあ、と思う行動でも

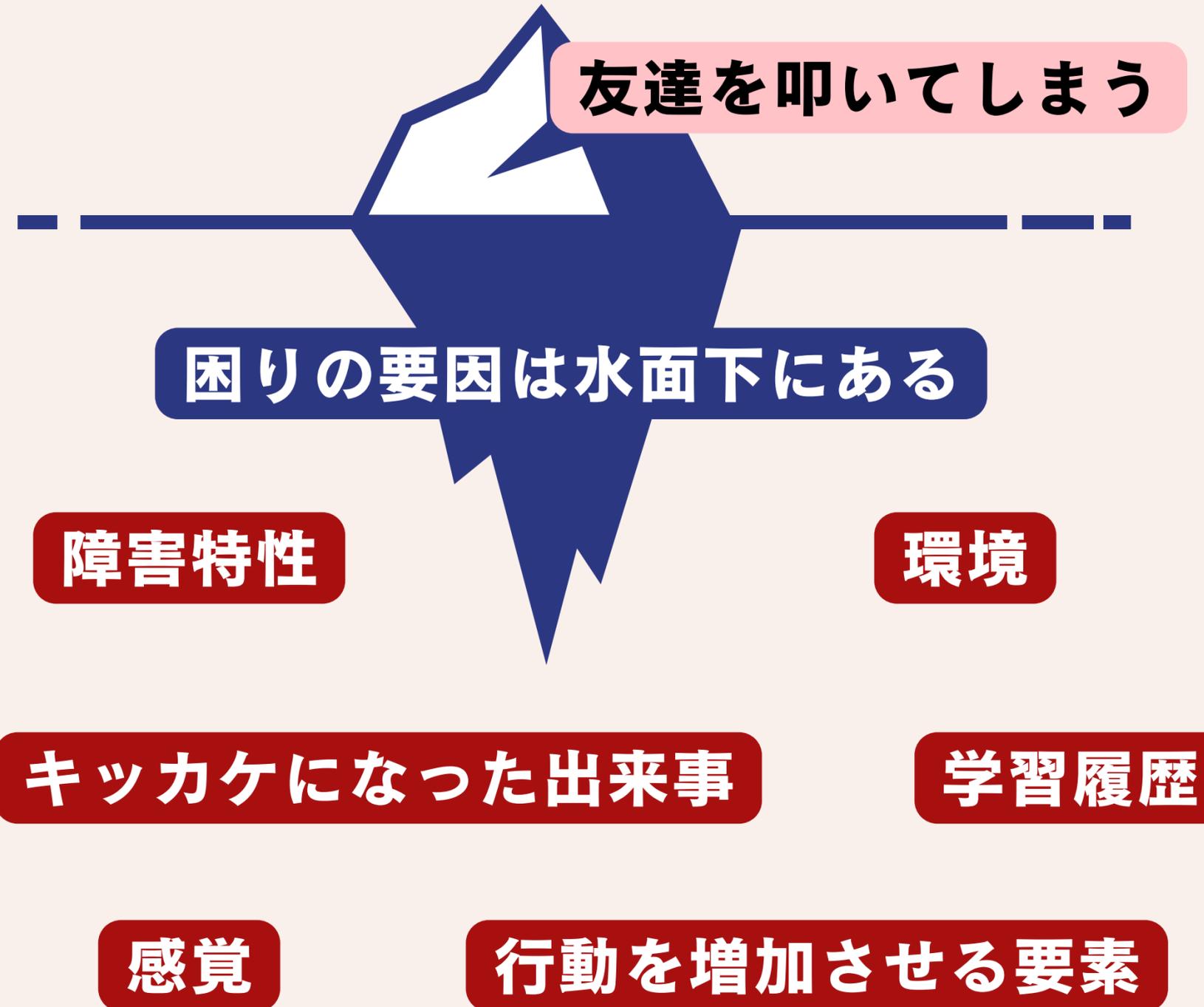
- ・子どもも、困っているサイン
- ・コミュニケーションの手段になっている
- ・子どもと環境のミスマッチによって苦しい
- ・間違えて学習している（誤学習、未学習、学習不足、決定権の誤解）
- ・子どもの行動には必ず目的がある

子どもから学ぶ  
子どもを分かるうとする

無条件の肯定的配慮

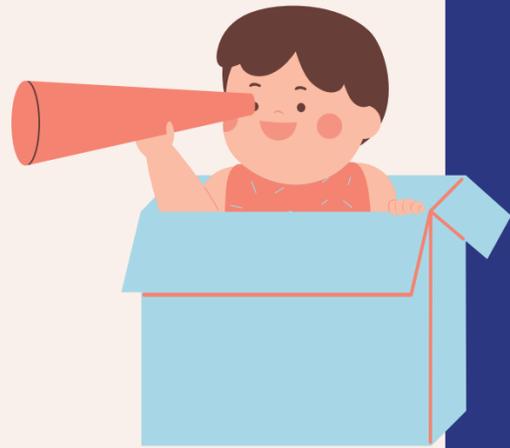


# 冰山モデルで深堀



— 冰山モデル —

# 子どもたちの行動の目的



獲得



逃避

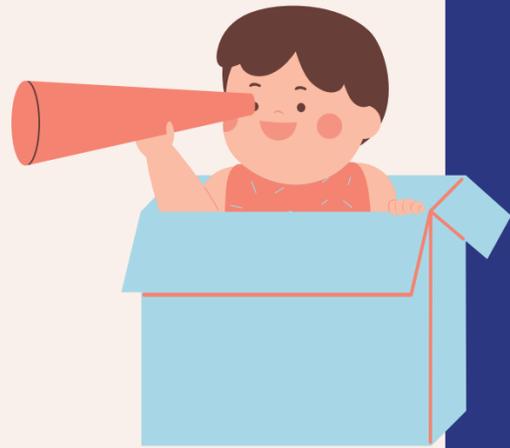


注目



自己刺激

# 子ども の 行動 の 目的



何か  
欲しい



何かから  
逃げたい



注目を  
得たい



感覚の快

# 子育ての落とし穴

「何をすべきではないか」を教える場面は沢山ある  
でも「何をどうすればよいか」を教える機会は  
意外と少ないんです

# できない事が 切り取られやすい

発達障害の診断を受けているお子様は  
普段の学校生活などにおいても  
できない部分にフォーカスされたり  
ただでさえ失敗が多くなり自信をなくしています

# 制限を受けると が多くなりがち

切り替えの困難さや負けの受容の困難さなどから  
「体験」から遠ざけられている子どもも少なくありません  
「好き」「得意」と感じる前に、止められてしまう  
経験が積み重ねていけない等・・・

# 「その子」が 困っていること？

子どもの問題行動は「困っている」サイン  
または「今までの恐怖体験等から来るもの」など  
“社会から見て困る”という視点ではなく  
“その子が困っていること”としてとらえよう

問題行動は  
わかってほしい  
の、サインかも

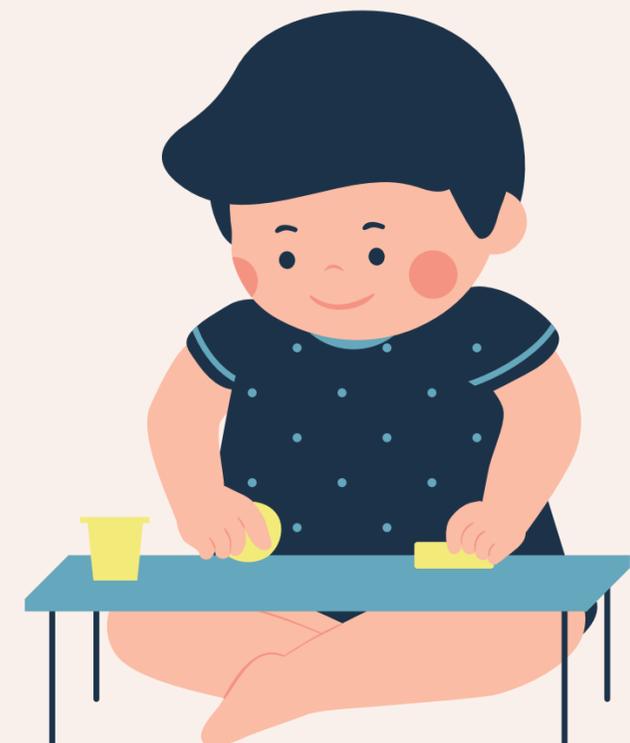


# 自立に向けて育みたいのは

- 自らを表現する力
- やりたいことと、やるべきこととの折り合いをつける力
- 外的な刺激がなくても自分で適切行動ができるようになる
- こだわりに対して社会的妥協点を探していく

葛藤をする力や、  
折り合いをつける力を育む

—放課後等デイサービスガイドライン「基本姿勢」より—



# そのために大人ができる事

真のニーズとは何かを深堀

**「問題行動をしない」  
は目標ではない**

問題行動の背景に目を向けることができれば  
子どもの真のニーズに気づくことができる

# 離席に関するアセスメント例

	場面	先行条件	行動	結果
①不実施	室内に入室後すぐ	玩具や他児が遊んでいる様子を見る	持ち物の片付けをせず遊び始める	声を掛けられる 注意される
②離脱	ロッカーに戻る	タオルを持っていく	持ち物の片付けの途中で遊び始める	声を掛けられる 注意される
③中断	ロッカーに戻る	シール帳をもっていく	室内をうろうろ歩き回る	一つひとつ手を添えて手伝ってもらう

離席に関するアセスメントを取る場合も、一定期間上表のようにどのような離籍状況か、その場面、発生したきっかけ、行動、それによる結果、支援者の動き方、支援者への注目はしていたかなど細かく記録をしていきます。

# 支援者の相互理解

## と共通認識

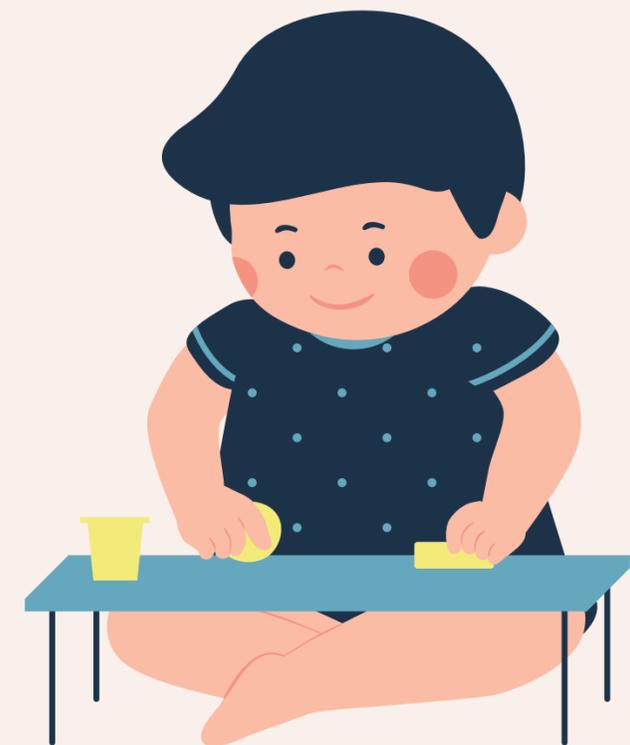
### 連携を図るため



# 行動分析で見えてくること

- 環境面の不整備
- 注目を引くなどの本人の情緒面の不安定さ
- 見え方、聞こえ方
- 指示の出し方の強さ、弱さ
- 支援者の共通理解の度合い
- 子どもへの評価の仕方

**＋その子の発達段階を踏まえて  
必要な支援を検討する**



# 離席（中絶）に関するアセスメント後の対応

要因	ポイント	
活動過程が多い	環境の工夫	
	情報伝達の工夫	
	評価の工夫	

「分かる」

「できる」

を追求する支援を



# リフレージング ストレージングスの 視点を欠かさない



# まとめ



**アセスメントはその子が持つ能力を最大限発揮する「わかる」「できる」支援の追求のための方法です。**

**特に4月のこの時期は環境変化による退行現象等が見られるお子様もいらっしゃいます。今までできていたことができなくなったときは、何らかの環境変化やそれに伴う情緒の不安を抱えている可能性があります。“いつもできているのに”と言いたくなるときも、“どうしたの”と本人の気持ちを確認することを忘れずに関わりましょう。**